

令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立富士特別支援学校 富士宮分校 P T A	
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	47名

1. 使用状況

寄贈物品名	職業用ミシン
使用学年及び人数	自主生産作業 クラフト班 10人
使用頻度	週1～2回
使用状況	自主生産作業(クラフト班)の作業の時間に使用
物品の使用による変化や効果	<p>・厚めの布と革バンドを縫うためには、通常のみシンが使えず、使用以前は時間と手間暇を掛けた手作業になっていた。手作業のため、製品の仕上がりに差が生じていた。職業用ミシンを使うことで、効率よく、安全に作業に取り組むことができるようになり、また、見た目にもきれいなものが出来上がるようになって、製品の質が向上した。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>・職業用ミシンを使うことで、量を意識した革製品作りに取り組むことができる。製品の数が増えることで、より多くの人に製品を販売することができ、クラフト班として製作意欲にもつながる。</p> <p>・手作業による革製品の良さと、ミシンを使って作る革製品の良さのバランスを考えながら製品作りに取り組んでいきたい。</p> <p>・R7年度はトートバックのみ製品化したが、今後、布と革を使ったコラボ製品の広がりを検討していく。</p>
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



説明書を見て糸の準備をする力も身に付いた。
布と革バンドを縫う作業がミシンでできるようになり、見た目がきれいな質のよい製品に仕上がること
で生徒の達成感につながっている。



きれいな見た目の縫い目

